

Men like potato salad.

男はポテトサラダが好き

老婆

「男はポテトサラダ好きでしょう？」

一道で煙草を吸いながら、たまたますれ違った知り合いの主婦に向かって。老婆の口から「男」「ポテト」「サラダ」という言葉が出る衝撃。

サラリーマン

「ばっだぁおってんしってっだっがよ！」

—怒り過ぎて何を言っているのかわからなくなっているサラリーマン。埼京線下り。部下に対して。格子柄のネクタイ。結び目は小さめ。

恋人同士

「今って何月だっけ？」

「なち月。」

—浴衣の女。駅前。信号待ち。白いTシャツを着た恋人の質問に対し。7月と8月の間で揺れる。

21歳

「『朝食を食べる』って、言うっけ？朝食を食べる...朝食を...あ、『朝食を摂る』かな？」

「あたし朝は抜く派～。食べない派～。」

—スタバ。女の子2人。ひとはメガネ。ひとは巻き髪。言い回しの確認をしたのに、派で答えられるメガネ。

営業マン

「私、太田とも申します。」

—某社からの営業電話にて。太田以外の呼び名がある可能性あり。

男児

「大人の本どこですか？」

—図書館。小学二年生。半ズボン。図書館司書に対して。

女子短大生

「私の誕生日って年に**1**回なんだけどさー。」

「へー。」

—2009年。山手線外回り。短大生。女ふたり。

OL

「たまプラーザって、変な名前だよね。」

—新橋。ドトール。アイ斯拉テを飲みながら同僚に対して。あたかも新発見、というような半笑い。

専門学生

「今日マジ寒くない？」

「だって今日の最高気温**9度**だぜ。」

「最高なのに寒いっておかしくね？」

—2009年冬。有楽町線。専門学校生。男ふたり。ひとりはメガネ。

服屋の店員

「このバッグかわいいですよー。ねー超かわいいですよー。私も色違い持ってるんですー。もう超かわいくってすごい使いやすくてー。うんうんそーそー。私は色違いを持ってるんですけどー、こっちの色もすごいかわいいですよー。」

「このバッグに色違い、ないから。」

—有楽町西武。客に対して必死な店員のトークを冷静に嗜める先輩店員。

上司

「うまい鯖はうまいよ。」

—「うまい〇〇はうまい」構文。変に神妙な顔で言う。年配に多い。

おバカに対して

「でも本当はバカじゃないんだよ。」

—おバカタレントと呼ばれる人の話題が出るとたまに聞く台詞。

母

「いつもの私とは違うんだから。」

—母親の口から出た「私」という一言の生々しさ。若干怒り気味、ふくれっ面気味で言う。

タクシードライバー

「パン屋が言っていました。」

—「もうじき消費税上がるんですってね。」に続けての一言。パン屋が言う事を真に受けるタクシー運転手。

コンビニのバイト

「20円のおかえりです。」

一つり銭を返す際に。コンビニ。言い間違えた事に気付きながらも押し通す私の強さ。男。二浪。文学部。愛媛出身。趣味は自転車。

OL

「お腹空かないかなと思って、お腹見てた。」

一休日。夜。青山のカフェ。遅れてきた男友達の「今何してた？」を受けての一言。独立志向が強い。実家。aikoに似てると言われてまんざらでもない。

主婦

『バナナ**1**本じゃ足りないから、ヨーグルトとクロワッサン食べるようにしてるわ。』

—朝バナナダイエットについて話す、道にいた主婦。

舞台女優

「白飯は別腹。」

—デザート直後。バイト2つ掛け持ち。劇団所属。29歳。上北沢。

恋人同士

「俺この前、ミキ先輩と携帯で喋ってんのに、携帯探しててさー。」

「わかる！メガネ頭の上に乗せながら、メガネ探しちゃうみたいな！」

「あ、はあ。」

—神田のカフェ。恋人同士。前髪ばかり気にする男。美大生の女。最初が男。カフェオレと言ったり、カフェオーレと言ったりする。会話の温度差。気圧の谷。

コンビニのバイト

『あたためません、よね？』

—おにぎりを手にして、一瞬迷った顔で言うコンビニの男性アルバイト。メガネは高い物を掛けるが、服は安くてもいいと思っている節がある。

バカ

「飛び石連休とか言って、石とかいらなくね？」

「つか石と連休、関係なくね？」

「そっかー。」

—京王バス。座ってるバカと立ってるバカ。最初が座ってるバカ。どちらのバカも靴が汚い。

OL

「今わたし、死ぬか生きるかのどっちかだったあ。」

—渋谷駅改札を出た直後に待ち合わせていた友人に向かって。表参道の美容院で毎月カットする。職場は丸の内。実家は南古谷。一人暮らしをするか迷っている。